

無電柱化の国際比較

——海外の先進事例から日本の課題を考える——

鎌田 健志朗

本研究は、日本において無電柱化が十分に進んでいない原因を明らかにするとともに、海外の先進的な取組との比較を通じて、日本の課題を捉え、多角的に考察することを目的とした。海外事例として台湾（台北市）、韓国（ソウル市）、イギリス（ロンドン市）、フランス（パリ市）、アメリカ（ニューヨーク市）を比較対象とした。

国や自治体が公表している資料や報告書、既往研究などの文献をもとに、無電柱化に関する制度、都市構造、整備手法、費用負担の違いについて、日本と海外の比較と分析を行った。

分析の結果、海外では法制度や費用負担の仕組みが比較的明確であり、自治体が主体となって無電柱化を進めているのに対し、日本では制度の複雑さや狭隘な道路条件、高い整備コスト、関係者間の合意形成の難しさが進展を妨げていることが明らかとなった。

日本における無電柱化の推進には、海外事例に見られるような制度の明確化や自治体の役割強化、地域条件に応じた柔軟な整備手法の導入が重要である。

本研究は、今後の都市政策やインフラ整備の方向性を考える上での示唆を与えるものである。